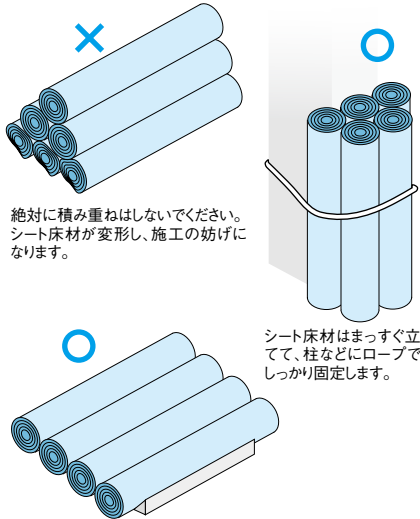


長尺シート床材の施工法(リノリウム・ノラプランは除く)

※商品によっては別途施工要領書をご用意していますので、施工前に弊社担当者までお問い合わせください。

施工の前に…

- 乱雑な積み込み、積み降ろしはしないでください。床材を落としたり、放り投げたりした時の衝撃は床材破損の原因となります。冬期は特に注意してください。
- シート床材は雨に濡れる場所で保管したり、冬場の屋外放置はしないでください。現場では屋内の指定場所に保管してください。シート床材をロールのまま保管する場合は、必ずロープで固定し、垂直に立て掛けた状態で保管してください。寝かせた状態で長期保管すると接地面が変形するおそれがあります。



絶対に積み重ねはしないでください。シート床材が変形し、施工の妨げになります。

シート床材はまっすぐ立てて、柱などにロープでしっかり固定します。

シート床材を立てることができない場合は、平らな場所に並べて置き、歯止めをしてください。

- 施工時は周囲の温度を15℃以上に保つようにしてください。13℃以下になると床材が硬くなり貼込みやカット作業がしにくくなります。
- 接着剤を使用する時は部屋の換気を十分に行なってください。

下地のチェック

シート床材の施工は、床下地の状況に大きく左右されます。床下地の種類条件によって、施工方法・接着剤の種類が異なる場合があります。(P.135～136参照)

各商品についての注意事項

■アルトロセーフティーフロア

- シート中の骨材密度の差により多少色調が異なります。骨材密度に差がある場合は、隣合せのシートの骨材密度をできるだけ合わせてください。
- 厨房・トイレ・介護浴室など水を使用する場所へ施工する際は、壁際は巻き上げ処理をし、グレーチング廻りなどはPVCアングル(P.82参照)を必ず使用してください。

■アルトロスプリーマ・インタータフシート

- 製品の特性により巻き上げ施工はできません。

■インプレッションコンフィ・単層シート

- 病院・高齢者施設の居室等で双輪キャスター式ベッドの使用が想定される場合、SU-502またはSE-103を使用して施工してください。

■チップインレイド床材

- 壁際まで床材を貼込む際、巻き上げ処理や幅木の取付をしない場合は、水やホコリがシート裏面に入らないようシーリング処理などを行なってください。
- シートのはがれを防ぐため、溶接できない端部(壁際や階段踏面など)はSU-502またはSE-103を使用して施工してください。

1 仮敷き

シート床材を2枚以上施工する場合は、敷き込みの前に仮敷きをし、色調・柄の差が出ないように確認・調整してください。

ニューテッセラコーロンは仮敷きできません。ご注意ください。

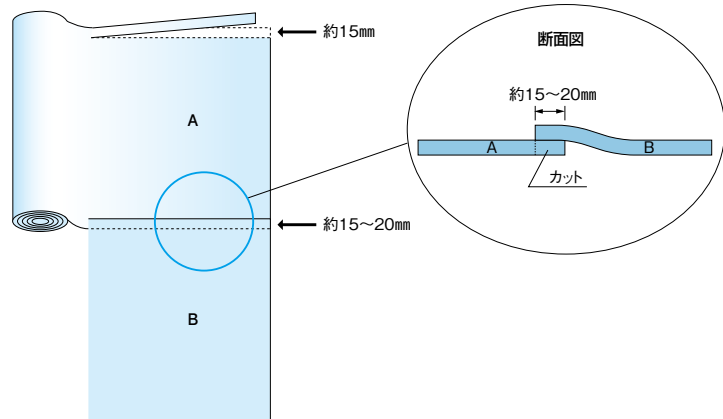
2 貼込み方向

シート床材には方向性があるものがあります。施工する際は柄の流れを所定の方向に合わせて(P.136参照)施工してください。

3 シート床材のカット

シート床材を広げ、割れや色ムラが無いことを確認した後、シート床材の片側端部を約15mm程度エッジトリマーなどで耳を落とします。(下図参照)

次の隣合わせのロール(すでに約15mm耳を落としたもの)を15～20mm程度重ね、重なった部分を落とし込み用工具を用いてカットします。



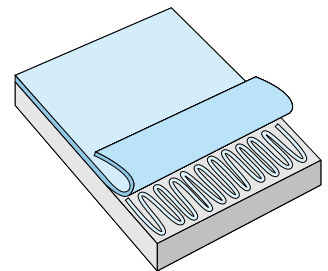
4 シート床材の接着(全面接着施工法)

各シート床材の専用接着剤を下地全面に塗布します。接着剤のオープンタイムを取ってから、シート床材を貼込みます。シート間の継ぎ目は隙間を空けず、突き付けて貼付けてください。

※必ず指定の接着剤をご使用ください。

また、標準使用量・オープンタイムは厳守してください。

※P-P施工法はP.144を参照してください。



専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。

施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS(MSDS)などに記載の注意事項をお読みの上、正しく安全に施工してください。

5 シート床材の圧着

シート床材を貼り終えたらローラーをかけ、下地に圧着してください。特にジョイント部および端部は、ハンドローラーで入念に圧着してください。

※ローラーがけの方向をよく確認して正しく施工してください。間違った方向にローラーがけをすると、壁際や目地部の圧着不良をおこし、床材の収縮の原因となります。図の方向にローラーを十分にかけることが大切です。

